

お父さんの死んだ場所

その工場の薄暗い地下へ降りると中ニメー
 トIVもある大きなローラーがゆつくりと廻
 っていた。ローラー全体に水がかかっていた。
 近くに舞われぼそのしぶきで服がぬれる。むぎ
 の高さにローラーのかみ合せの部分があつて
 そのかみ合せの前には簡単な柵が設けられて
 いる。万一のかみ合せに服の一部ぶつかみ
 込まれれば確実に体全体がローラーに巻き込

まれば抜くことは不可能である。ローラーを
 止めない限り、或は逆回転させない限りゆつ
 くりと確実に人間は紙のよりのばされ巻き
 込まれてしまう。実際にその災害が起きた。
 私が見た時はもう被害者の姿はなく、ロー
 ラーは何事もなかったようにゆつくりと回つ
 ていた。会話が聞きとれぬ位の大きな機械音
 が反響しているその地下工場は全体が水びた
 しという感じであり、至る所に様々な危険箇
 所が散見される。ローラーを止めるのは、

と向う私に工場長はローラーから数メートル離れたスイツキを指した。つまり誰か別の仲間が危険を察知して止めない限りローラーは止まらない。その時、は被害者一人が地下で体をしこりた、とのことであった。彼は何かの拍子にそのローラーに近づいた。多分作業服の一部がローラーに触れ、そのまま巻き込まれてしまったのだ。ローラーの速ながら程ゆつくりしこりこも一夜巻き込まれたら抜け出すわけにはいかない。叫んでもその声の届く所に誰もいなかったのだ。

現場調査を終えて地上に戻った私と工場長はしばらく声がなくなかった。

「家族が来たんですよ」と工場長がボソツと言った。「若い毒君がまだ小さい子を連れ出して小さい子？」「その子に現場を見せると言つてですね」「工場長はしがったがその若い妻はその幼な子を現場へ連れ去ったといふ。そして、「ここが父さんの死んだ場所だ」とよく見ておきなさい」とその子に

言、たと。水びたしのあの現場へ、その
 子の身長は何倍もあつて、口ーラーを見
 せる、若、妻の気持を察して足元の崩れる思
 いがした。口ーラーはほんなに小なもので
 もそのかみ合せの部分は非常に危険だ。一
 ん巻き込まれようばどうしようもなくゆっ
 巻き込まれよう。どん、に恐ろしかったに
 とか、どん、に苦しかったにとか、同様のこ
 うした災害は少なくない。いまも思ひ出す
 とザワ／＼と落付かない、気持におそわれる。

その子に巻き込まれた。